

## 2024沖縄平和研修開催!

Part 1

2024年5月9日(木)~11日(土)にかけて、本部青年部主催「2024沖縄平和研修」を開催し、11名の仲間で、沖縄の現地に立ち、過去の沖縄と現在の沖縄について学ぶことができました。また、美世志会の梁次さんにも現地で3日間、帯同していただき、多くの事を学ばせていただきました。

沖縄は、いわば「捨て石作戦」として、本土決戦のための「持久戦」の場とされました。よって、1945年3月26日のアメリカ軍上陸から、6月23日までの約3ヶ月間、組織的な戦闘が行われました。戦死者は12万人いたことからすると、戦前約49万人の沖縄県民の4人に1人が亡くなった悲惨な地上戦でした。

写真の「糸数アブチラガマ」は、自然にできた洞窟であり、住民の避難場所でした。その後、南風原(はえばる)陸軍病院の糸数分室とされて、日本軍と住民が同居する状態となり、米軍の攻撃にもさらされました。ひめゆり学徒が休む暇もなく傷病兵の手当を行い、時には麻酔も使わずに手足を切り落とす手術も行われました。

### 糸数アブチラガマ



### 荒崎海岸



荒崎海岸は解散命令後のひめゆり学徒が自決をした場所です。日本軍の傷病兵の手当をしていた、ひめゆり学徒は6月18日解散命令が出されます。手当をさせておきながら、どうしようもなくなると「解散命令」。無責任な命令により、逃げまどい、最後は、陸・海から米軍の攻撃を受け亡くなった方もいますし、自決という道を選んだ方もいます。最後、国は国民を守らなかったということです。この事実から目を背けていけないと感じました。この荒崎海岸はとてもゴツゴツした場所であり、「この岩のところまで来るまでに足が傷だらけになってしまうのではないかと参加者からもあり、当時の恐怖や悲惨さは私たちの想像を越えたものであると感じました。

戦争では多くの民間人が亡くなっており、この事実から目をそらしてはいけません。そして、国が国民を守らなかったという事実も受け止めなければなりません。

